

## 2050年「実質ゼロ」へ。私たちのロードマップ

大崎町は令和4年に「ゼロカーボン推進宣言」を行い、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにすることを目指しています。2030年度の目標である「2013年度比で50%削減」を目指し、町一丸となって取り組んでいます。徹底した省エネに加え、大崎らしい「資源循環」を軸とした再生可能エネルギーへの転換を進めています。

### 季節で振り返る！2025年度の主な活動

町では、脱炭素推進事業（受託者：三ッ輪ホールディングス株式会社）を実施しており、季節毎の取り組みを写真とともにご紹介します。

春～夏



#### 田んぼから地球を守る 「中干し延長」の実証

水稻栽培で行われる「中干し」は、水田の水を一時的に抜く管理方法です。中干しを延長することで生育に悪影響がでないか、実証を行いました。

##### なぜ脱炭素？

水田から発生する強力な温室効果ガス「メタン」を約30%削減できるからです。結果、立小野地区の実証圃場にて、収穫量や食味に影響がないことが確認されました。

夏～秋



#### ごみを宝に変える 「バイオ炭」の製造と散布

もみ殻やさつまいも残渣、海岸の流木を「炭」にして農地にまく実験を行いました。

##### なぜ脱炭素？

植物を炭に変えて（バイオ炭といいます）それを土中に埋めることで、大気から二酸化炭素を減らすことができます。土壌改良剤として炭を使うと畑にも温暖化対策にも良いということで注目されているのがバイオ炭です。バイオ炭をまいた畑では、作物の形が良くなり、収量が増えるといった良好な結果が得られました。